



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月10日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 8214 URL http://www.aoki-hd.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日 平成28年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	82,656	1.2	660	△82.1	508	△86.0	152	△92.9
28年3月期第2四半期	81,704	4.5	3,681	46.4	3,620	44.6	2,157	48.8

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 132百万円(△93.8%) 28年3月期第2四半期 2,135百万円(4.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	1.72	—
28年3月期第2四半期	23.80	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	221,473	139,526	63.0
28年3月期	230,363	142,926	62.0

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 139,438百万円 28年3月期 142,838百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
29年3月期	—	21.00			
29年3月期(予想)			—	22.00	43.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	196,270	4.1	15,800	△11.2	15,500	△12.1	8,800	△9.4	99.48

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

詳細は、4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	29年3月期2Q	90,649,504株	28年3月期	90,649,504株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	2,617,204株	28年3月期	984,762株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	29年3月期2Q	88,824,724株	28年3月期2Q	90,635,763株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビューが実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算説明会資料について)

・当社は、平成28年11月18日(金)に機関投資家・アナリスト向け決算説明会を開催する予定です。この決算説明会で配布した資料等については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境が改善傾向で推移した一方、円高の進行や株価の低迷、海外経済の下振れ懸念などにより景気停滞感が継続しております。また、個人消費は食料品の価格上昇等により節約志向が広がるなど、力強さに欠ける状況となっております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は826億56百万円（前年同期比1.2%増）、営業利益は6億60百万円（前年同期比82.1%減）、経常利益は5億8百万円（前年同期比86.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億52百万円（前年同期比92.9%減）となりました。

セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(ファッション事業)

AOKIでは、デザインバリエーションを広げた「本当に洗えるスーツ」や「ハイスペックノーアイロンシャツ」等の機能性商品の提案を強化するとともに、働く女性に向けたオフィスカジュアルアイテムの拡充を図るなど、レディース商品を更に強化いたしました。また、約100店舗の大規模改装を実施し、中長期的な成長を見据えた店舗環境面の整備や改善を図りました。店舗面では、ショッピングセンター等へ3店舗を新規出店した一方、移転を含め5店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は565店舗（前期末567店舗）となりました。

ORIHICA（オリヒカ）は、「THE 3rd SUITS（サードスーツ）」や「スーパーノーアイロンシャツ」等のクールビズに対応したビジネス・ビジカジスタイルの提案を強化するとともに、レディースは、季節の変わり目に便利なパンツ&スカート、シャツ&ブラウスのコーディネートアイテムを提案いたしました。店舗面では、1店舗を新規出店した一方、1店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は144店舗（前期末144店舗）となりました。

これらの結果、既存店が堅調に推移し、売上高は458億11百万円（前年同期比2.5%増）、営業損失は改装セール等に伴う売上総利益率の低下や改装に伴う販売管理費の大幅増加等により18億16百万円（前年同期は1億37百万円の営業損失）となりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウェディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、施設ごとの特徴を活かした販促・PRの実施や多様化するウェディングのニーズやトレンドに応えるため2施設のリニューアルを実施いたしました。しかしながら、市場環境等の影響により施行組数が減少いたしました。

これらの結果、売上高は129億8百万円（前年同期比13.8%減）、営業利益は8億31百万円（前年同期比54.9%減）となりました。

(カラオケルーム運営事業)

株式会社ヴァリックのカラオケルーム運営事業は、引き続き人気アーティストや人気キャラクターとのコラボレーションキャンペーンを実施するとともに、季節限定メニューの提案強化及びコンセプトルームの拡充等16店舗のリニューアルを実施し、既存店の活性化に注力いたしました。店舗面では、6店舗を新規出店した一方、1店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は、188店舗（前期末183店舗）となりました。

これらの結果、新規出店が寄与したものの競争激化等により既存店が苦戦し、売上高は88億56百万円（前年同期比1.4%増）、営業利益は38百万円（前年同期比92.1%減）となりました。

(複合カフェ運営事業)

株式会社ヴァリックの複合カフェ運営事業は、季節限定メニューの提案強化やアミューズメントコンテンツ及び女性専用エリアの拡充等12店舗のリニューアルを実施し、既存店の活性化に注力いたしました。更に、業界に先駆け全店舗のパソコンをWindows10に更新し、安全かつ快適な施設環境の整備を図りました。店舗面では、積極的に21店舗を新規出店した一方、契約満了により1店舗を閉鎖した結果、当第2四半期末の店舗数は315店舗（前期末295店舗）となりました。

これらの結果、売上高は150億94百万円（前年同期比13.3%増）、営業利益は店舗人員の確保に伴う人件費の上昇等により12億74百万円（前年同期比5.7%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ88億89百万円減少し、2,214億73百万円となりました。

流動資産は、たな卸資産が新規出店等により8億12百万円増加した一方、現金及び預金が設備投資や法人税等の支払い等により51億23百万円及び売掛金が季節的要因等により61億79百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ104億42百万円減少いたしました。固定資産は、投資有価証券の売却等により投資その他の資産のその他が16億19百万円減少した一方、有形固定資産が新規出店及びリニューアル等により30億92百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ15億52百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、一年内返済予定の長期借入金が28億円増加した一方、買掛金が季節的要因等により38億99百万円及び未払法人税等が法人税等の支払いにより15億11百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ22億24百万円減少いたしました。固定負債は、長期借入金が約定返済等により38億25百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ32億65百万円減少いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純利益及び剰余金の配当の結果15億29百万円減少し、自己株式が取得により18億48百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ33億99百万円減少しております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物(以下、「資金」といいます。)は、前連結会計年度末と比べ51億23百万円減少し、224億36百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は、23億75百万円(前年同期は21億13百万円の支出)となりました。これは主に、仕入債務の減少額が38億99百万円及び法人税等の支払額が37億6百万円となった一方、減価償却費が38億98百万円及び売上債権の減少額が61億79百万円となったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により使用した資金は、24億24百万円(前年同期と比べ6億28百万円減少)となりました。これは主に、投資有価証券の売却による収入が20億68百万円となった一方、新規出店及びリニューアル等に伴う有形固定資産の取得による支出が39億7百万円となったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、50億74百万円(前年同期と比べ33億7百万円増加)となりました。これは主に、長期借入金の約定返済による支出が10億25百万円、自己株式の取得による支出が18億48百万円及び配当金の支払額が17億95百万円となったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間の業績については、概ね予想どおり推移いたしました。

通期の連結業績予想については、足元の状況及び今後の景況感や市場環境等を踏まえ、各事業の出店計画及び経費計画等の見直しを行った結果、平成28年5月12日に公表しました業績について、売上高及び経常利益を修正しております。新規出店は、ファッション事業で13店舗を18店舗に、複合カフェ運営事業で44店舗を52店舗に期初から変更いたしました。

平成29年3月期 通期連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A) (平成28年5月12日公表)	194,600	15,800	15,700	8,800	98.92
今回修正予想(B)	196,270	15,800	15,500	8,800	99.48
増減額(B-A)	1,670	—	△200	—	
増減率(%)	0.9	—	△1.3	—	
ご参考(前期実績) (平成28年3月期)	188,594	17,789	17,627	9,711	107.55

なお、セグメント別の通期業績予想についても、以下のとおり見直しを行っております。

【平成29年3月期のセグメント別予想】

	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	連結
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
売上高	119,100	27,400	18,900	30,900	196,270
前期比(%)	104.5	93.4	103.6	114.2	104.1
セグメント利益	9,000	2,800	1,060	2,240	15,800
前期比(%)	91.7	78.0	71.2	97.8	88.8

(注) セグメント利益は営業利益ベースの数値であり、各セグメントの合計と連結との差異は、連結上の調整額です。

※ 上記の業績予想は、現時点で当社が入手している情報等に基づいて判断したものであり、実際の業績は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日。以下「回収可能性適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間から適用し、繰延税金資産の回収可能性に関する会計処理の一部を見直しております。

回収可能性適用指針の適用については、回収可能性適用指針第49項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点において回収可能性適用指針第49項(3)①から③に該当する定めを適用した場合の繰延税金資産及び繰延税金負債の額と、前連結会計年度末の繰延税金資産及び繰延税金負債の額との差額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加算しております。

この結果、第1四半期連結会計期間の期首において、繰延税金資産（投資その他の資産）が110百万円、利益剰余金が110百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,560	22,436
売掛金	9,437	3,257
たな卸資産	27,835	28,647
その他	9,111	9,155
貸倒引当金	△45	△41
流動資産合計	73,899	63,456
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	58,900	60,092
土地	36,934	36,953
その他(純額)	12,010	13,892
有形固定資産合計	107,846	110,938
無形固定資産	6,680	6,451
投資その他の資産		
差入保証金	8,307	8,311
敷金	20,576	20,880
その他	13,093	11,474
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	41,936	40,626
固定資産合計	156,464	158,016
資産合計	230,363	221,473
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,021	14,121
1年内返済予定の長期借入金	4,050	6,850
未払法人税等	2,669	1,158
賞与引当金	1,708	1,810
役員賞与引当金	98	61
その他	11,700	12,022
流動負債合計	38,248	36,024
固定負債		
長期借入金	36,275	32,450
役員退職慰労引当金	1,845	1,882
ポイント引当金	1,014	945
退職給付に係る負債	853	877
資産除去債務	5,109	5,279
その他	4,090	4,487
固定負債合計	49,187	45,922
負債合計	87,436	81,947

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,833	27,833
利益剰余金	92,929	91,399
自己株式	△1,436	△3,285
株主資本合計	142,609	139,230
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	612	533
退職給付に係る調整累計額	△383	△325
その他の包括利益累計額合計	229	208
新株予約権	87	87
純資産合計	142,926	139,526
負債純資産合計	230,363	221,473

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	81,704	82,656
売上原価	45,517	48,313
売上総利益	36,187	34,342
販売費及び一般管理費	32,505	33,681
営業利益	3,681	660
営業外収益		
受取利息	52	49
受取配当金	103	71
不動産賃貸料	305	305
その他	158	150
営業外収益合計	620	576
営業外費用		
支払利息	166	158
不動産賃貸費用	277	256
その他	237	314
営業外費用合計	681	728
経常利益	3,620	508
特別利益		
投資有価証券売却益	—	542
特別利益合計	—	542
特別損失		
減損損失	347	391
災害による損失	—	102
特別損失合計	347	494
税金等調整前四半期純利益	3,272	556
法人税、住民税及び事業税	1,176	1,097
法人税等調整額	△61	△693
法人税等合計	1,115	403
四半期純利益	2,157	152
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,157	152

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	2,157	152
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△66	△79
退職給付に係る調整額	44	58
その他の包括利益合計	△22	△20
四半期包括利益	2,135	132
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,135	132
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,272	556
減価償却費	3,803	3,898
減損損失	347	391
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△54	37
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△55	△68
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	107	112
受取利息及び受取配当金	△156	△120
支払利息	166	158
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△542
売上債権の増減額(△は増加)	5,660	6,179
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,683	△812
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,320	△3,899
未払消費税等の増減額(△は減少)	△2,610	△646
その他	△867	△337
小計	1,616	4,906
利息及び配当金の受取額	131	97
利息の支払額	△166	△159
法人税等の支払額	△4,937	△3,706
法人税等の還付額	1,243	1,236
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,113	2,375
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△3,009	△3,907
無形固定資産の取得による支出	△460	△212
敷金及び保証金の差入による支出	△417	△865
投資有価証券の売却による収入	—	2,068
信託受益権の純増減額(△は増加)	780	258
その他	52	234
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,053	△2,424
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	3,000	—
長期借入れによる収入	1,000	—
長期借入金の返済による支出	△1,225	△1,025
リース債務の返済による支出	△995	△894
自己株式の取得による支出	△1,905	△1,848
配当金の支払額	△1,641	△1,795
その他	—	490
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,767	△5,074
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△6,933	△5,123
現金及び現金同等物の期首残高	29,226	27,560
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,292	22,436

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

自己株式の取得

当社は、平成28年2月15日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,632千株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が1,848百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が3,285百万円となっております。

(セグメント情報等)

前第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	44,693	14,960	8,728	13,321	81,704	—	81,704
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	17	1	0	23	△23	—
計	44,697	14,978	8,730	13,322	81,727	△23	81,704
セグメント利益 又は損失(△)	△137	1,841	482	1,351	3,539	142	3,681

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額142百万円には、セグメント間取引消去2,195百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,052百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖が決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ66百万円、133百万円及び147百万円です。

当第2四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	カラオケ ルーム 運営事業	複合カフェ 運営事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	45,810	12,899	8,852	15,094	82,656	—	82,656
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	8	4	—	14	△14	—
計	45,811	12,908	8,856	15,094	82,671	△14	82,656
セグメント利益 又は損失 (△)	△1,816	831	38	1,274	327	333	660

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額333百万円には、セグメント間取引消去2,177百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,844百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や建替えが決定し回収が見込めなくなった又は損益が継続的にマイナスとなっている営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においてはそれぞれ147百万円、172百万円及び71百万円です。